

令和3年度第2回ラドネット研究会

日時：令和3年12月4日（土）13:00～17:00

場所：公益財団法人原子力安全技術センター 会議室

（〒112-8604 東京都文京区白山5-1-3-101）

ZOOMによるハイブリッドオンライン開催

<https://us02web.zoom.us/j/83696223030?pwd=UnFpYUZsb1dUWmNIQ3Z5MmJaa243dz09>

ミーティング ID: 836 9622 3030

パスコード: kd9DUJ

参加費 無料

プログラム

13:00 開会挨拶 山野 直樹 理事長

13:05～14:30 国内原子力施設の廃止措置の動向

講師 田中 健一 氏（エネルギー総合工学研究所）

発表要旨：国内の原子力発電所の約40%が廃止措置の段階にある。これらは“廃止措置計画認可申請書”を作成し、申請を行っている。認可申請は廃止措置を行うための必要条件であり、合理的に実施可能であることの十分条件を満たしているのではない。本講演では、十分条件を満たすことに必須な“施設の実態把握＝放射性物質の分布とその特徴把握”作業とその重要性について紹介する。

14:30～15:30 原子力学会標準「クリアランスの判断方法」

講師 中田 幹裕 会員（ニュークリア・デベロップメント㈱）

発表要旨：2001年に原子力安全委員会からクリアランスレベル検認のあり方が示され、原子力学会は、検認に係る技術的方法論を検討するため標準委員会クリアランス検認分科会を設置して、2005年に「クリアランスの判断方法」を発行した。今般、クリアランス許認可で種々議論有る中、学会標準が示す判断手順や測定評価方法などの方法論は技術的に有効なものであり、改めてこれを整理し紹介するものである。また、規制委員会のクリアランス許認可に係る「審査基準」では、不確かさを考慮した判定方法などについて、原子力学会標準と異なる考え方を規定しており、この差異について簡単に比較する。

15:30～15:45 休憩

15:45～16:30 放射能汚染可視化ソフトウェア COMRIS の紹介

講師 根本 誠 氏、黒澤 直弘 会員

（㈱ヴィジブルインフォメーションセンター）

発表要旨：放射能汚染可視化ソフトウェア COMRIS は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構により新たに開発された放射線計測技術と連携を図って、放射線作業環境における放射性物質の位置やその拡がりを作業環境の3次元モデル上に重ね合わせて可視化するソフトウェアです。作業員の被ばく低減を図りつつ効率的な作業計画の立案に有用な放射性物質分布を提供できます。弊社は、本ソフトウェアを製品化し、販売する予定です。

16:30～17:00 高レベル放射性廃棄物地層処分に係る大学生との対話活動

講師 山野 直樹 理事長

発表要旨：ラドネットの事業として、「地層処分事業推進のための学習の機会提供事業」の支援を受け、令和3年度も将来のオピニオンリーダーとなる大学生・大学院生を主な対象とした対話活動を実施している。高レベル放射性廃棄物地層処分について、技術的安全性・成立性から社会的課題に至るまでの広範なテーマに関するワークショップと見学会を組み合わせで行っている。今年度の活動内容について紹介する。

17:00 閉会挨拶 坂本 幸夫 副理事長